



国労仙台

No. 2589
2010年7月15日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

和解調印行われる

残す課題 雇用の実現へ全力を

6月28日、鉄道運輸機構と原告は、最高裁第三小法廷会議室において、「裁判上の和解」手続きを行った。これにより、JR不採用事件は、解決金など「金銭」部分については決着を見ることがになった。

国労は、残された課題である「雇用の確保」を実現し、「路頭に迷わない解決」の完成型を目指す闘いに全力を挙げる。

喜び祝福し合える日が来る

◆1047名JR不採用事件での「裁判上の和解」手続きの場には、五つの訴訟の弁護士と被告・鉄道運輸機構訴訟の代理人が出席する中、那須弘平裁判長によって和解調書の和解条項が確認された。

◆内容は、鉄道・運輸機構が解決金として199億3291万円の支払義務があることを認め、一審原告が仮執行で受けた28億8707万7767円を差引いた170億4583万2233円を平成22年6月30日限り支払う。利害関係人はそれぞれの訴訟を取り下げる。一審原告らは一審被告に対するその余の請求を放棄する。一審原告ら及

◆6月30日、三弁護士団名の管理口座に鉄道運輸機構側から解決金の振り込みが確認されたことにより、裁判上の和解に基づく金銭部分について決着を見ることがなった。「筆舌に尽くしがたい」という言葉は幾度も使われているが、闘争団・家族のこの間の苦勞、苦悩はとも紙面で現しきれないものではない。今に至る23年の月日を思うとき、金銭の部分についても不十分さを感じない。

◆「闘い道半ばである。『雇用実現』を勝ち取り、心の底から喜び、祝福し合える日を必ずつかむために頑張ろう。」

作並で職場交流

東日本電気協議会

6月20・21日、作並温泉において第22回国労東日本電気職場交流会が開催された。毎年、各地方本部の持ち回りで行われ、今年は仙台地電協が担当。十二地方地区本部の電気職場と本部から総勢91名が参加した。初日の全体集会では、地元地方本部として中島副委員長が歓迎の言葉を述べた後、仙台の職場実態に触れ、地本として安全問題について

その後、電車線、配電、変電、貨物、信号、通信、事務の7つの分科会に分散し交流が行われ、二日間に亘り議論が行われた。夕食時には各地方本部が選りすぐりの銘酒を用意。参加者は勢いをつけて、会場を代えてからも各分科会毎に更に交流を深めた。翌日は1日目に引き続き分科会毎の議論を継続。その後全体交流に移り、分科会の報告と中沢議長による集約が行われ、最後に今回の開催予定地である水戸地本の高木議長の団結頑張ろうで全日程を終了した。



【千葉通信員】

不十分だが、頑張った成果

▼JR不採用問題の政治的解決にむけた基本的合意の成立を受けて「JR不採用問題解決福島県報告集会（福島県平和フォーラム、国労仙台・水戸地本主催）」が、6月13日、郡山市「ビューホテル・アネックス」において168名の仲間を集めて開催された。

▼主催者を代表して福島県平和フォーラム浦井代表は「戦後最大の労働事件として争われてきたが、4者・4団体の運動と政治の力によって扉が開かれた。この問題に取り組んできた我々も感慨無量」と挨拶。

▼社民党福島県連合古川代表は「党の最大課題としてきた。国鉄闘争は日本の民主主義を守る闘いであった。大きく前進できたことを喜び合いたい。残された課題に全力を尽くす」と述べた。

▼連帯する会福島県連絡協議会大野議長は「内容は必ずしも十分ではないが、これを契機に闘争団・家族の新たな出発に。国鉄闘争

は、国家的不当労働行為との闘いだけに長期化せざるを得ない面もあったが、闘い続けてきたからこそ今日がある。23年間の闘いを今後どう活かすかが課題となる」と述べた。

JR不採用問題解決福島県報告集会

▼国労本部高橋委員長は情勢報告後、闘争団員と遺族より、御礼の挨拶が述べられた。

▼田谷良一「多くの仲間も励まして頑張ってくれた。教組の書記をしており、これまでの経験を生かして頑張る」

▼上遠野武「かあちゃんと激論した思い出が残る。郡山市の嘱託職員をしている。残された問題の解決を」

▼佐藤正則「88歳の認知症のお袋と苦勞を掛け過ぎて3年前に脳出血で倒れ半身不随の障害者になった妻。家族を含めた23年の苦勞を償うには不十分な中身だ

が、頑張ってきた成果と受け止めている」

▼菅原芳子（遺族）「夫はガン宣告を受け、手術し8年間頑張った。あと2年頑張れば、この集会に参加できたかと思うと残念」

▼高橋敏夫「働く者は勝つ。組織なしに、闘いの安心な社会をつくるために頑張る」

▼最後に雇用の確保にむけて頑張ることを確認しながら、浦井代表の団結ガンバローで報告集会を閉じた。

▼引き続き開催された「解決記念レセプション（本部主催）」には23年間お世話になった政労、労働団体、支援団体の代表、国労議員団、国労仙台・水戸地本の仲間など107名が参加。レセプションでは、23年間のお互いの健闘をたたえ合った。そして、闘争団・家族から23年にわたる支援に対して御礼が述べられ、全面解決まで闘い続けることを確認し合った。

【仙台闘争団にゆーすNo.125より抜粋】

喜多方地区連帯する会

「解散記念」集会を開催

喜多方地区連帯する会 解決報告集会・解散記念レ（大野恒夫会長）は、6月19日、喜多方市「新丁子屋」において、「JR不採用問題」た大野会長は「結成当時47

9/4（土）合唱発表会 13:30開演

入場無料
全国から鉄道員の合唱団
グループが続々登場 必見・必聴！

9/5（日）大音楽祭 13:30開演

1000円 障害者、中学生以下無料
ぼっぼ屋のうたごえと東北の力を合わせて創り出す！

会場 名取市文化会館 大ホール
[両日とも]

主催・第4回 国鉄のうたごえ祭典実行委員会
共催・宮城のうたごえ協議会
後援・国鉄労働組合仙台地方本部
・ 連な労鉄道 宮城地方本部
連絡先・ Tel & Fax 022-261-5280
事務局 高橋 E-MAIL kazuhiko@light@yahoo.co.jp

第4回国鉄のうたごえ祭典inみやぎ 線路は続くよ 未来 どこまでも

スペシャルゲスト
ナターシャ・グジー
ウクレレの歌姫。
美しい透明な歌声と
バンドメンバーの響き。



撮影：広河 隆一

稚内闘争団と交流深める

宮城県支部など主催

闘争団激励家族交流会
6月24日、宮城県支部は稚内闘争団を激励し、交流を深めることを目的に開催を継続していた「稚内闘争団激励家族交流会」を国労会館において開催した。
地方本部を代表し、中島副委員長が、歓迎と激励の挨拶を述べた。また稚内闘



第8回国労闘争団を励ます集
「闘争団を支える会」と宮城県支部の共催による「第8回国労闘争団を励ます集い」が、仙台市市民センターにおいて開催された。第一部では、主催者を代表して、支える会の高橋治代表と宮城県支部秋山委員長が挨拶。続いて家族の阿部さん（写真上）と田中さん（写真上左）よりそれぞれ御礼と闘争団と家族の現状報告を受け、参加した80



う決意を固め合った。
また、仙台闘争団からは佐藤昭一さんご夫妻、佐藤正則さんご夫妻が参加した。
第二部は昼食懇親会であり、組合員の奥様達が、稚内の特産品を使用した創作料理など、多くの手料理を披露。参加した仲間達はこの思いに胸を打たれながら、雇用問題の決着に向けて闘

退職のお知らせ

山形 文男さん
山形連合
高橋 光治さん
小牛田駅連合

今後の予定

JR不採用問題の政治
解決報告集会

召集範囲

支部・分連協・分会代表
日時 8月28日（土） 14時

会場 仙台市・ホテル白萩

第65回定期地方大会

日時 9月26日（日） 13時
27日（月） 12時

会場 松島・ホテル大観荘

齋藤幸次氏が逝去

地方本部執行副委員長・郡山工場支部委員長を歴任した、齋藤幸次氏が、6月28日、市内の病院で逝去された。享年72歳。
齋藤氏は肺気腫を患っており、6月7日に体調不良を訴え病院を訪れ入院。肺炎を原因とする多臓器不全により亡くなった。
齋藤氏は85年に地本執行委員の任に就き、87年の

兜森さんが秋田に異動

JRバス東北支社は、国労東北自動車支部宮城県分会所属の兜森秀昭さんに対し、7月1日付で、秋田支店への異動発令を行った。
兜森さんは秋田支店勤務時、08年12月1日付けで国労に加入。その後仙台支店への異動を命じられ、単身赴任で仙台市からの業務委託先の白沢営業所に勤務していた。
兜森さんは、仙台にお